

当社グループは、様々な企業活動を通じて社会に貢献していきたいと考えています。事業環境及び地球環境との調和を図り、社会と共生する「良き企業市民」を目指す観点から、継続的な活動に取り組んでいます。

地球環境保全への取り組み

JTグループにとって、地球環境保全への取り組みは自らの社会的責任を果たす上で不可欠な要素であり、経営の最重要課題の一つです。

「JTグループ環境憲章」を定め、事業活動を行うすべての国や地域において良識ある企業市民として行動し、企業活動と環境との調和に向け、JTグループ全体で取り組みを推進しています。そして、「JTグループ環境憲章」の理念を実現するための具体的な環境保全活動の中期計画「JTグループ環境行動計画」を策定し、各事業部門及びグループ会社がこの目標達成に取り組んでいます。

(取り組みの詳細については、「CSR報告書2009」をご覧ください。)

グループ環境マネジメント

JTグループでは、国際規格であるISO14001に基づく環境マネジメントシステムの構築を推進しており、事業所の事業形態や環境負荷状況などに応じて構築レベルを設定しています。生産系事業所ではISO14001認証取得、支店・研究所などの非生産系事業所ではISO14001に準拠したJT独自の環境マネジメントシステムを構築しています。また環境負荷が小さい小規模事業所などでは簡易環境マネジメントシステムを構築・運用しています。

グループ会社においては環境負荷の大きい生産系企業を中心に国内24社およびJTIの16工場を対象として環境マネジメントシステムの構築を進め、2009年3月期には完了しています。

今後は、連結子会社全社を対象に、事業形態や環境負荷状況に応じた環境マネジメントシステムの構築を進めていきます。

地球温暖化防止の取り組み

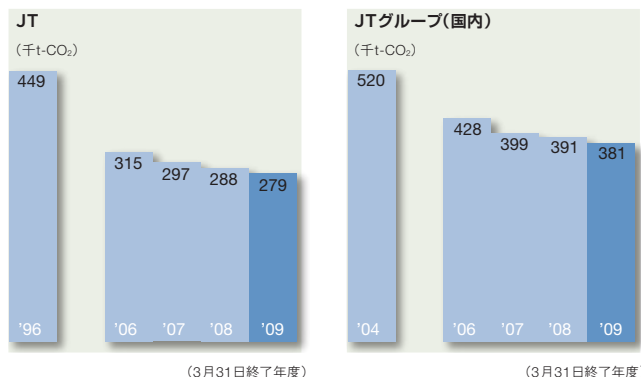
JTグループでは、地球温暖化防止に関する京都議定書の第一約束期間の開始などを背景に、温室効果ガスの排出量の削減、省エネルギーに積極的に取り組んでいます。

2009年3月期の二酸化炭素排出量は、工場における空調管理の改善による電力使用量の削減や工場で使用する燃料の転換などに取り組んだ結果、JTは1996年3月期比で約37.9%削減、JTグループ(国内)は2004年3月期比で26.7%削減しました。

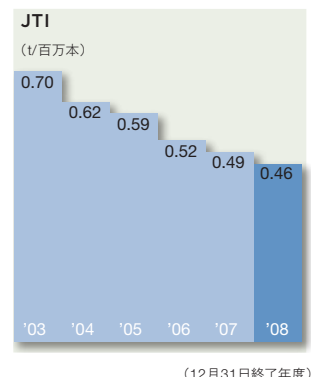
水使用量削減の取り組み

JTグループでは、たばこ、食品を製造する過程で貴重な天然資源である水を使用しています。JTグループの生産系事業所では、排水処理の管理といった水質の保全に加え、たばこ工場における省資源プロジェクトに基づく製造工程の改善や、水の再利用等により、水の使用量の削減に取り組んでいます。

二酸化炭素排出量の推移



たばこ百万本当たり二酸化炭素排出量



これらの取り組みの結果、2009年3月期の水使用量は、JTは1996年3月期比で約63.5%削減、JTグループ(国内)は2004年3月期比で62.8%削減しました。

資源の有効利用の取り組み

限りある資源を大切にするため、事業活動に伴って発生する廃棄物の発生抑制とそれらの再使用、リサイクルにJTグループの生産系、非生産系事業所で取り組んでいます。

2009年3月期の廃棄物発生量は、JTグループ(国内)は2004年3月期比で約12.2%削減し、24工場がゼロエミッションを達成し、再資源化率は98.3%となりました。

JTでは16工場がゼロエミッションを達成し、再資源化率は、工場で99.99%、本社で98.8%、非生産系事業所で92.1%となりました。

海外における地球環境保全の取り組み

JTIの製造拠点は、ギャラハー統合の結果、25カ国30以上となりました。ISO14001の外部認証については、統合前に取得した16工場に加え、2010年までにはJTIの全工場が取得する計画です。

JTIが地球環境保全の活動指標としているたばこ100万本当たりの二酸化炭素排出量、エネルギー使用量、水使用量はいずれも対前年比が5年連続で減少しており、2008年の実績は2007年に比べそれぞれ6%、4%、13%減となっています。たばこ100万本当たりの廃棄物発生量は12%減少し、再資源化率は1%上昇しました。

JTIの各工場では引き続き、使用エネルギーの削減や施設空調管理等の基礎資料となるエネルギー計測の精度向上など、効率化を目指す様々なプログラムを実施しています。

喫煙環境改善とマナー向上への取り組み

(この項では、日本での取り組みについて説明します)

当社は、たばこを吸われる方と吸われない方が協調して共存できる社会の実現に向けて、大人の責任と選択でたばこを選んでいただいた大切なお客様が、マナーや吸われない方への配慮を忘れることなく、自分の愛するたばこを最大限に楽しんでいただきたいと願い、様々な取り組みを進めることにより、たばこ事業を営む企業としての社会的責任を果たしたいと考えています。

様々な取り組みの一例紹介

喫煙場所設置

たばこを吸われる、吸われないに関わらず、すべての方が心地よく共存できるよう各自治体、駅・空港等の公共機関や施設管理者と協力して各地に様々な形で喫煙場所を設けています。



千代田区祖橋公園喫煙所

分煙コンサルティング

公共施設や商業施設、オフィスビル等に対して、各施設の特徴や利用される方々のニーズに応じた「分煙コンサルティング」を実施しています。「たばこを吸われない方」に配慮した上で、「たばこを吸われる方」が満足いただける分煙方法についての知見提供・提案を無償でアドバイスしています。

喫煙マナー広告

喫煙マナーの向上は、喫煙される方一人ひとりのマナー向上が不可欠のものであると考え、身近な喫煙マナーの具体的なシーンを数多く紹介し、たばこを吸われる方にマナーについて、「気づき」、「考え」、「行動」していただくことを目的に、「あなたが気づけばマナーは変わる。」という喫煙マナーキャンペーンを継続的に実施しています。

ひろえば街が好きになる運動

マナー意識を高めていただくきっかけの一つとして2004年5月より、全国各地の祭事やイベント会場等で、自治体、学校、企業、ボランティア団体等様々な方々と「ひろえば街が好きになる運動」という清掃活動を実施しています。2004年5月の活動開始からの実施回数は全都道府県で合計737回を突破し、1,367団体、約80万人の方々(2009年3月31日現在)に参加いただきました。



ひろえば街が好きになる運動

喫煙環境改善に向けての様々な取り組みについては、JTのホームページで詳しく紹介しています。

URL:<http://www.jti.co.jp/sstyle/index.html>

JTグループの社会貢献活動

1. JTグループの社会貢献活動

JTグループでは、事業活動を行うすべての国や地域において、社会と共生する「良き企業市民」であることを目指し、「JTグループの社会貢献活動の基本方針」で重点分野を定め、社会貢献活動に取り組んでいます。

JTグループの社会貢献活動の基本方針

JTグループでは、社会の一員として、社会と共生する「良き企業市民」であることを目指し、継続的に地域社会に貢献し、企業の社会的責任を果たしていきたいと考えています。

JTグループは、良き隣人として地域コミュニティの再生と活性化を果たすため、以下を重点分野と位置付けます。

- 「社会福祉」
- 「文化・芸術」
- 「環境保全」
- 「被災地域への支援」

JTグループは、この重点分野の中から、自らが事業を行っている地域社会の発展に貢献するため、その地域社会において最も重要な課題について取り組んでいきます。

JTグループでは、この基本方針に基づき、社員自らの社会貢献活動への参加を奨励し、地域社会との共生が図れるよう、世界中で様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

2. 国内における取り組み

社会福祉

JTグループでは、良き隣人として地域コミュニティの再生と活性化に貢献したいと考え、「青少年育成に関するNPO助成事業」、「JTアジア奨学金制度」や「JT将棋日本シリーズこども大会」等様々なプログラムを実施しています。

全国各地にあるJTグループの事業所では、地域の祭りやスポーツ大会への協力、グラウンド等の社有施設を地域の方々へ開放する等、地域に根ざした様々な地域貢献活動を行っています。



JT将棋日本シリーズこども大会

バレーボール教室

文化・芸術

JTグループでは音楽をはじめ、文化・芸術の発展や向上に寄与する活動に取り組んでいます。

東京都港区虎ノ門の「JTアートホールアフィニス」では、クラシックの室内楽を中心とした文化的な催しを継続的に開催。音楽家の育成も含め、創造性を尊重した良質なコンサートを社会に提供しています。

また、日本のプロオーケストラ支援のため「アフィニス文化財団」を設立し、海外研修や公演助成、セミナーやコンサートの開催等芸術家の研鑽や文化振興を支援しています。

その他、たばこ塩に関する資料収集や調査・研究を行うとともに、展示やイベントを通じその歴史と文化を紹介する「たばこ塩の博物館」（東京都渋谷区）、生き物の多様性を研究し、展示や実験室公開等様々な方法で表現することで生命を考える楽しさを伝える「JT生命誌研究館」（大阪府高槻市）等JTならではのユニークな取り組みも行っています。



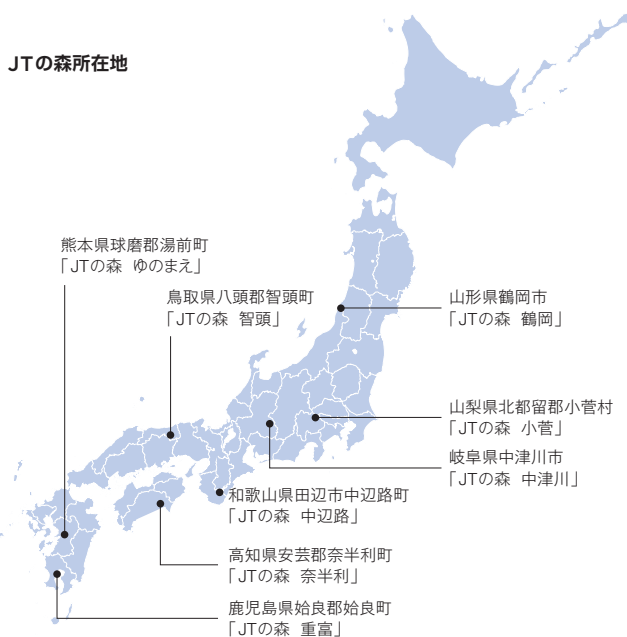
JTアートホール室内楽シリーズ

環境保全

JTグループでは事業を支える自然への感謝と地球環境を大切に思う気持ちから、「植林／森林保全活動」や事業所周辺での清掃活動といった「環境美化活動」等に取り組んでいます。

植林／森林保全活動「JTの森」は、2005年に和歌山県中辺路からスタートし、現在では、山梨県、高知県、鳥取県、岐阜県、鹿児島県、熊本県、山形県の計8カ所で森の再生に取り組んでいます。

JTの森所在地



JTの森 ゆのまえ（植林活動）

被災地域への支援

JTグループでは国内外のグループ各社が連携し、救援物資の寄贈や災害義援金の寄付など災害被災地への支援活動に取り組んでいます。2008年度は、中国四川大地震、岩手・宮城内陸地震等の被災地へ義援金や飲料を提供しました。

3. 海外における取り組み

JTグループでは、自らが事業を行っている地域社会の発展に貢献するために世界中で様々な社会貢献活動に取り組んでいます。その中心的な役割を果たしているのが、海外たばこ事業の中核として世界120カ国以上でJTグループのたばこブランドの製造・マーケティング・販売を統括しているJTI (JT International)です。また、JTI独自の活動に加え、アフリカにおける植林／森林保全活動等、JTグループとして地域社会の重要課題に取り組んでいます。



アフリカにおける植林／森林保全活動（苗木の植え付け）

JTIの社会貢献活動

JTIは、事業を展開している地域社会において継続的に社会貢献活動に取り組んでいます。JTグループの社会貢献活動の基本方針に沿ったJTIの社会貢献活動方針とガイドラインを定めて全社で共有し、社会福祉（慈善活動）、文化・芸術、被災地への支援の3つの分野に重点を置き活動しています。

社会福祉（慈善活動）

社会福祉の分野では、高齢者介護に重点を置いた取り組みや、読み書きに困難を伴う成人を支援する取り組みなど、多数のプロジェクトを支援しています。2008年にJTIが支援した活動の一例をご紹介します。

カナダでは、高齢者がインターネットや電子メールが使えるように、再生利用コンピューターを配布し、トレーニングを受けることを支援しています。高齢者にとって、この支援を通じて身に付けたスキルを使い、家族や友人などの大切な人たちと離れて暮らしていても連絡を取り合うことが可能になりました。

また、ルーマニアでは、高齢者の日常生活の質を改善するための高齢者プロジェクトを長年支援してきました。2008年も引き続き、支援を必要とする人たちへの食事の提供、衣類の寄贈、外出の手伝いなどの活動に、従業員が積極的に参加しました。



高齢者支援 (JTIルーマニア)

アイルランドではJTIの支援のもと、プロの俳優や音楽家のグループが、施設でケアを受けて生活している人たちに対して演奏や演劇を披露しました。また、識字教育とコンピュータースキルの通年プログラムも支援しています。これは身体の不自由な成人を対象に、社会参加と雇用機会を促進・改善することを目標としています。



演奏プログラム (JTIアイルランド)

オープンラーニングセンター
(JTIアイルランド)

JTIポーランドでも成人の識字教育のテーマに取り組んでいます。自社の工場に近いゴストコ地域で、コンピューター教育に関連したプロジェクトを実施しています。この地域は従来より高い失業率に苦しんでいましたが、このプロジェクトを通じて参加者にコンピュータースキルを高めてもらうことで、雇用機会が増えました。



コンピューターコースの参加者 (JTIポーランド)

文化・芸術

文化・芸術の分野では、引き続き世界各地で数多くの文化プロジェクトや展覧会の支援に意欲的に取り組んでいます。

JTIフランスは、世界的に有名で日本ともつながりの深いルーブル美術館の「ルーブル企業サークル」の創立メンバーであり、また同サークルの「スポンサーシップ運営委員会」のメンバーも務めています。



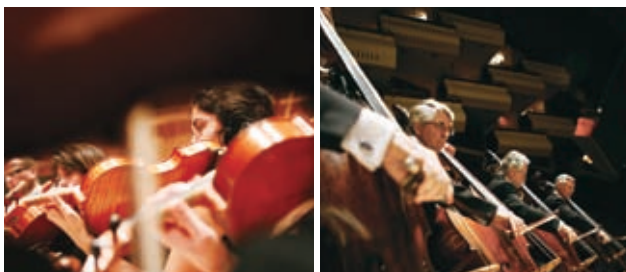
ルーブル美術館支援 (JTIフランス)

また1993年以来、JTIイベリアは、スペインのプラド美術館を支援しています。同美術館には多くの日本人観光客が訪れていますが、2008年には長年にわたる支援の一環として、プラド美術館のギャラリーガイドブックに日本語版を追加しました。日本語で詳細な情報を提供することで、日本人観光客がその傑作群を一層楽しめるようになりました。



プラド美術館のギャラリーガイド(JTIイベリア)

JTIイギリスは、ロンドンフィルハーモニー管弦楽団と5年間のパートナーシップを結びました。同管弦楽団は1932年に設立され、世界で最も優れたオーケストラの一つとして認められています。年間50回を超えるコンサートを世界各地で開催するほか、ロンドンのロイヤル・フェスティバル・ホールやグラインドボーン・フェスティバル・オペラで活動しています。JTIは、同管弦楽団の「フライデー・シリーズ」コンサートが継続的に開催され、幅広い人たちが手ごろな価格で演奏を楽しむことができるよう支援しています。



ロンドンフィルハーモニー管弦楽団支援(JTIイギリス)
©写真:ベンジャミン・エアロベガ

ロシアのマリンスキー劇場は、同国で最古の音楽劇場であり、2世紀以上にわたって国立オペラ・バレエ学校の役割を果たしてきました。JTIロシアは、新しいコンサートホール建設に資金面で支援するなど同劇場とのパートナーシップを構築してきました。今回、このパートナーシップをさらに3年間延長し、2つの大きな公演のメインスポンサーになりました。また、このパートナーシップにより高齢者や社会的に恵まれない人々を対象にした慈善コンサートの開催など、計100回以上のコンサートを行うことが可能になりました。

さらに、マリンスキー劇場の芸術活動を世の中に広く紹介するため、英国のマリンスキー劇場トラストにも支援をしています。この支援を通じ、劇場の交響楽団や演奏家がイギリスのバービカン・シアターでコンサートを開催しました。



マリンスキー劇場(JTIロシア)

被災地域への支援

2001年、JTIは世界中の恵まれない人々を支援するためにJTI財団を設立しました。特に地震や自然災害での被災者への支援に力を入れています。JTI財団は、赤十字社などの主要な救援組織や各国政府、NGOなどと協力して活動しています。

2008年にJTI財団は、地震被害を迅速かつ正確に予測するシステムモデルの開発に対して、引き続き支援を行いました。この開発により、世界中で行われる救援活動の効果が大きく高まることが期待されます。さらに、世界各地で率先して救援活動に取り組むトルコの救援組織を継続的に支援しました。また最近では、ベトナムの被災地で家を失った被災者に住宅を提供するため、ベトナム赤十字社へ寄付を行いました。



ベトナム赤十字の家(JTI財団)